

# 自分も社会も豊かにープロを目指そう！



商学部長  
**木立 真直**  
Manao KIDACHI

ご入学おめでとうございます。桜咲く多摩キャンパスに新入生の皆さんをお迎えられることを心より嬉しく思います。

皆さんは今、4年間という長丁場のマラソンのスタートラインに立っています。当然、ゴールを目指すことが課題となります。しかし、ゴールを明確に意識している人はどれだけいるでしょうか。私は学生に節目節目に「何になりたいの」と問いかけています。けれども、実のところ皆さんが「何に」になりたいのかにはさほど興味はありません。すでにゴールが一つという時代ではないからです。そもそも、そのゴール自体、新たなスタートではないことも明らかでしょう。本当に問いたいのは別のところにあります。

近年、日本では食品、耐震、会計、さらには結婚など、様々な偽装事件が多発しています。私はこれを日本の「ニセモノ」社会化と呼んでいます。安心して暮らせる日本社会の豊かさの基盤が足元から揺らぎつつあるのです。人の観点から言えば、熟練の境地を極めた信頼に足るプロが減る一方、本来の役割とは正反対の負の影響をもたらす偽者が増えつつあります。泥棒をするお巡りさん、子を遺棄する親、悪事に加担する弁護士、不正経理を見逃す会計士、真実をねじ曲げ捏造を重ねる研究者、教育をしない教員、そして、学ばない学生。

社会の高度化・複雑化にもその一因はあるのでしょう。しかしながら、学生諸君に言いたいのは、夢や目標を実現し自らも豊かな人生を送りたいならば、「何に」だけでは問題意識が浅いですよ。「何に」を超えた「どんな」に関するビジョンをしっかりと熟慮して欲しい、ということです。

プロとして成長するための出発点は志にあります。まずは真面目に学生することに尽きます。夢と目標に折に触れては思いを馳せながら、4年間の長丁場をプロの大学生として立派に走完してください。中央大学の教職員一同、皆さん一人ひとりが本学での4年間を通して大きく成長されるよう心から期待しています。



理工学部長  
**石井 靖**  
Yasushi ISHII

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今年も後楽園の地に約千名の新入生を迎えることとなります。皆さんの入学を、心より歓迎致します。皆さんは、最高学府たる大学に進むにあたり、様々な選抜をパスして自分はここにあるというある種の高揚感をもって、この春を迎えていることと思います。その高揚感を持ち続けて下さい。

ある調査によると、320人の企業の最高経営責任者に「社員としてどんな分野の大学の卒業生を選ぶか」を尋ねたところ、74%がリベラルアーツの卒業生を選ぶと答えたとのこと。これはアメリカでの調査であり、アメリカの大学教育・学部教育の基本がリベラルアーツ教育であるということは割り引いておく必要がありますが、我が国でもリベラルアーツ教育の関心が高まっていることも事実です。実際に、大学教育に求めるものとして日本を代表する大手企業から「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ確立(リベラルアーツ教育の深化)」、「広く厚みのある教養」などの項目が挙げられています。このようなことが言われるようになった背景には、ダイバーシティという言葉に象徴される多様化した世界や価値観と、グローバリゼーションという言葉で表現される世界のボーダーレス化の中で、信頼関係の構築が今まで以上に求められていると、そんなものがあるような気がします。大学に入るとつい専門的な勉強に目が向きがちですが、学部の間「リベラルアーツ」に目を向けてみる時間があってもいいのではないかと思います。相対性理論を創り上げた物理学者のアインシュタインは、「大学教育の価値は、多くの事実を教わるのではなく、考えるために頭をトレーニングすることである」と述べています。「頭のトレーニング」の一つとして、「リベラルアーツ」にも親しんで頂けたらと思います。

皆さんが大学というところを職業訓練の場ではなく、自己研鑽の場として大いに活用されることを期待しています。中央大学の建学の精神「**「実地應用ノ素ヲ養フ**」の意味するところは、大学で「**「実地應用**」を学ぶのではなく、「**「素ヲ養フ**」の**「のだ**」

# 「頭のトレーニング」として「リベラルアーツ」を